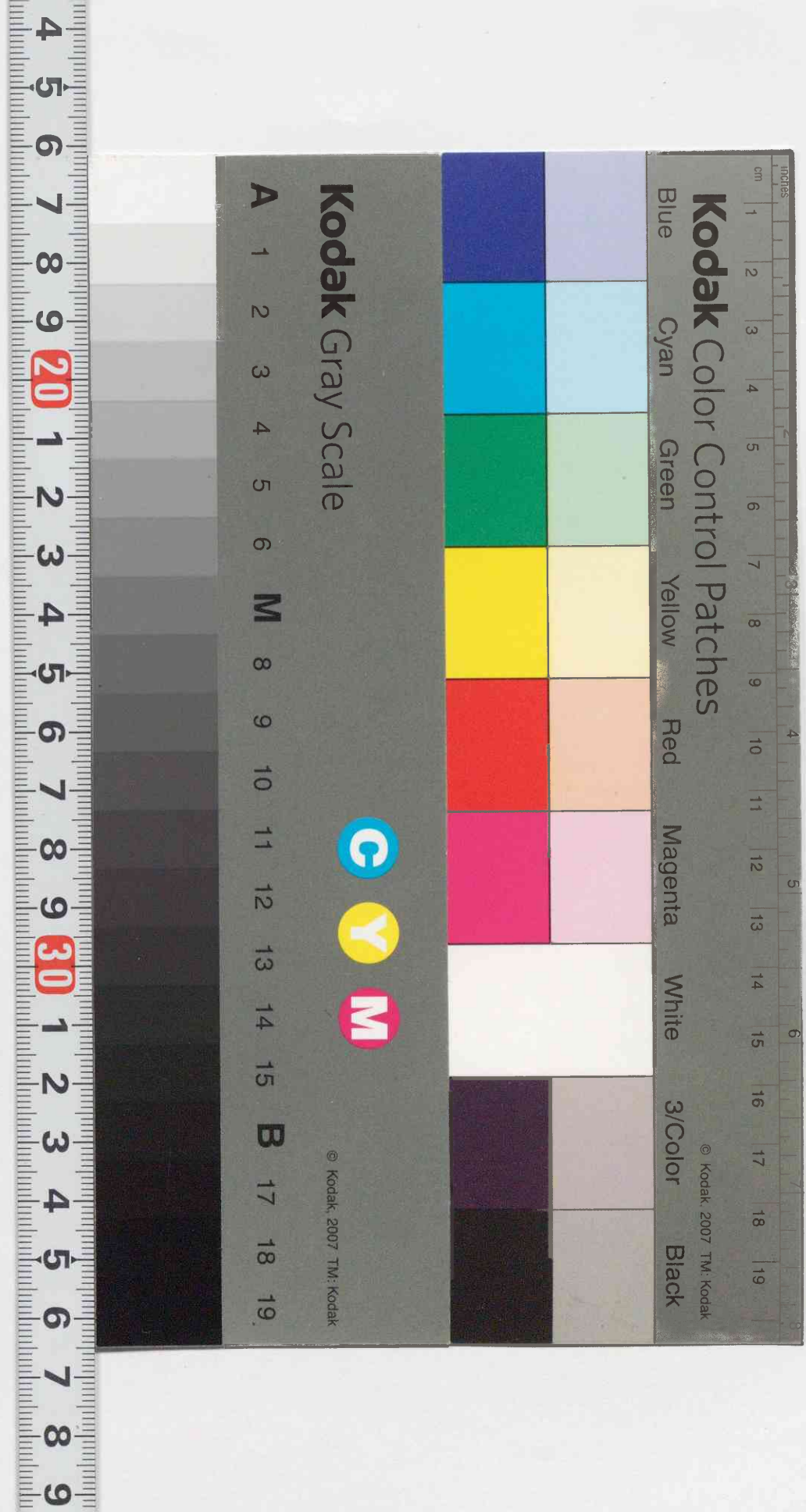




南總里見八犬傳卷之四

東都 曲亭主人編次

第七回

景連奸計信時を賣け
孝吉節義実小辞を

松倉本曾め氏元が使者。蜷崎十郎輝成東條よりせしめて麻呂信
時が首級を進せしけり。けしき。民実ハ大床子のほろり小出。件の使者と
ちろく召せ合戦のる体のみづろ同せぬ。ひらば蜷崎十郎おろしけり
其糧乏くまうまひ。氏元豫るあろふか。且て百姓們を催促し
運送せむと。あつた。小安西景連麻呂信時を。定包ふか。つて。これ
海陸の通路を塞が。小荷駄を取んと。これ。を。信時。の難。義。小。及。び
あふ。氏元。は。い。づ。ろ。小。日。を。過。し。て。あ。る。は。景連。一。夕。



竊は家隸某甲をのりて氏元より来る。山下定包も逆賊へりや。
 蘇秦張儀とりて百遍千遍相譚し、も美引べうのるがけに信時、
 そのうささき。渠がふ小途、寒死良將、勇士を苦め、これるを
 浅猿と後悔、臍を喰ひぬ。信時、只管鐵を磨く。説くもあひく
 さひ、は是も亦靴を隔る。癰を搔くも異なり。信事、情を量る。信
 時、匹夫の勇士、利の爲、を忘る。貪れども飽する。景連、舊
 好を思ふ。故に一旦合體するといふ。も、り、恨を改む。狂人を追ふ不
 狂人。走る共、必しや。や、べ、野合體の念、ひ、狂翻し。信時、と、果
 して、其糧運送の略、を用、里見、殿、力を戮し。賊首、定包、を討滅し。
 大義を舒んとする。も、景連、よ、ま、未臨せ。里見、ぬ、を要
 とをば。ある、態、礼、儀、る、り、に、彼、信時、が、拒、け、ゆ、え、なる。然、る、和、殿

城を。短兵急、攻、る。信時、野豬、成者、敵、と、思、慮、も、る。一陣、の
 進ん、ど、その、景連、後陣、より、さ、一、揆、く、は、狂、信時、と、取、ふ、せん
 る。當、我、返、如、ん、執、疑、く、大、事、を、懼、る。と、さ、く、回、答、我、侯、とい、へ、り。
 あ、う、と、も、氏、元、の、敵、の、謀、り、や。と、名、ひ、一、つ、桃、こ、く、後、つ、と、使、者、の、往、返
 度、か、さ、か、つ、と、信、時、を、さ、え、ふ、け、る。さ、信時、を、怒、ん、と、て、安、西、ふ
 謀、に、合、せ、降、と、降、む、と、五、月、雨、の、黒、白、も、こ、う、ぬ、暗、夜、は、二、百、餘、騎、を、率、に、
 枚、を、銜、と、鑢、と、鉗、め、麻、呂、信時、が、屯、せ、る、濱、藪、の、柵、乃、前、後、より、生、れ、こ、と
 推、し、せ、く、用、武、咄、と、つ、ら、と、掛、を、二、三、突、く、入、る。敵、よ、は、一、つ、お、ひ、
 かけ、か、た、麻、呂、の、二、陣、劇、騷、た、く。系、馬、小、鞭、を、當、弦、な、ら、ふ、筋、を、
 と、と、系、立、と、馬、癖、な、ら、ふ、只、路、を、求、る、の、を、防、戦、入、と、さ、る、の、る、
 その、と、信時、を、激、し、懸、け、る、る、の、共、る、敵、へ、正、し、く、小、勢、を、推、包、で

勢よりむや。遂に前より安西小笑まじき。勢より進めと列し。く
令し。真先小馬乗出。鎗よりくとうち揮。逼る。寄る。然突倒を
その勢ひ。正は。見群。羊の中。小入る。猛虎の暴。小異。たのむ。士率の
こむ。勸。さ。將。後陣。なる。安西。が。援。来。なん。と。ひ。ひ。ん。逃。ん。と。し。路。の。ぬ。う
旋。ら。し。嗚。呼。と。戦。へ。さ。る。る。る。由。躬。方。の。先。鋒。外。面。追。う。さ。れ。路。の。ぬ。う
ア。小。足。中。の。も。と。り。の。勢。ひ。引。き。こ。り。當。下。枚。倉。氏。元。の。眼。疾。眩。し。上。を
ふ。り。立。一。旦。破。り。二。の。柵。を。追。う。さ。る。る。工。を。入。る。名。を。惜。み。恥。を。な。る。め。の
こ。む。不。続。け。と。い。ひ。あ。く。と。白。旗。株。と。腰。を。挿。燈。を。鳴。り。馬。を。進。め。て。鳥
夜。小。見。え。く。長。刀。を。水。車。の。如。く。揮。廻。し。て。信。時。小。聲。を。懸。き。六。箇。の。火。光。小。信。と
兄。と。汝。ハ。氏。元。飲。り。た。敵。を。其。如。る。退。そ。と。い。ひ。び。う。け。く。鎗。を。捻。て。礮。と。突。き
腹。石。と。受。て。く。後。へ。引。つ。け。入。り。さ。る。る。風。を。一。上。一。下。と。し。紙。盡。と。大

將。の。工。を。く。ち。の。躬。方。の。敵。も。兵。を。く。相。助。小。暇。な。る。氏。元。と。信。時。ハ
人。を。難。と。戦。ふ。は。信。時。焦。燥。と。突。出。と。鎗。の。尖。頭。を。氏。元。ハ。左。へ。丁。と。將
除。ち。と。嗚。呼。と。向。上。る。五。尺。長。刀。の。柄。を。拿。受。く。内。見。へ。突。入。さ。る。る。む。さ。る。小
衝。落。せ。ば。さ。り。の。信。時。灸。所。の。痛。小。なる。處。に。鎗。を。小。ひ。ち。る。が。馬。も。さ
控。と。滾。滾。の。音。小。巨。象。の。え。り。と。た。が。ど。く。小。走。よ。せ。く。その。頭。取。と。い。と
と。ま。せ。く。く。勢。を。あ。く。さ。る。義。実。つ。く。と。う。ち。さ。る。氏。元。が。その。夜。に。軍。功
賞。さ。る。小。馬。と。い。も。計。畧。各。足。が。り。け。り。景。連。猛。小。心。裏。及。び。信。時。を
勢。ま。し。る。の。その。故。の。の。あ。く。と。さ。る。夫。而。雄。ハ。立。立。む。信。時。景。連。祖。與。小
こ。む。我。勢。も。と。も。早。小。提。げ。ハ。必。要。生。む。と。い。然。る。氏。元。も。さ。る。と。い。く。安
西。小。その。の。さ。る。と。い。く。信。時。を。勢。と。り。ハ。躬。方。の。為。小。利。ハ。な。く。景。連。ハ
め。さ。る。と。い。く。彼。安。西。ハ。何。と。い。と。さ。る。と。同。せ。る。ハ。蚤。崎。十。郎。と。い。景。連。ハ

その夜さし朝方のぬべ征箭一條も射さばひの程ゆる前ある柵を
 退れといと答さうせむ義実の扇をひらき勝鼓をうき既景連
 奸計の著れり。日か滝田を攻め勝敗測にといとも定色と天神地
 祇も憎せむひのちのさぬ逆賊なり。一旦その利あふ小仙たるも始
 終全うしとい景連のひん定色竟に滅亡し。義実その地を有る及
 ひ。信時ハ安西が翼ゆるるべぬめるる。只大むかり勇や虎の三與ふを
 謀の軍成せぬ。膽く負たんと成かそとて。陽中義実と合體し。氏元
 信時を怒せ。景連ハその虚小乗し。平館を攻落し。朝夷郡成合せ領し。
 牛角の勢ひ成張ふんと鼓扇の外る。日か推量ハ違ハト。とその脾
 肝成指さむ。いと精細又宣ふ折氏元が再度の注進某乙とことなき系
 了。信時既怒れ。残兵領を素と驛なく。逃る成直し追捨て氏元と

軍兵成纏め。越東條へ帰陣し。いひ。小豈おりの人や景連ハを前
 原を退れて平館の城を乗取。麻呂が来地朝夷一郡あるもの。物と存り。
 狗骨とり。鷹小捉せ。氏元ハ旁して功あり。かん勢をさ。向なる先鋒と
 奉。朝夷一郡いづさなり。景連が根城を屠。この憤を散まへ。
 このよりより多入と。孝吉貞小書簡を寄せ。金碗も堀内をふ
 至。その君の聰察。叡智又感伏し。さや景連成討多入と頻々小勸免
 奉。義実成う。掉て不安西ハ討。日か一定色を滅せ。む。景
 利成。あふ。民の塗炭成救ふ。さ。衆人のあふ。ふ。長援平
 郡の主と。なる。日か。己が幸る。む。や。景連。東雄。さ。い。定色。景連
 あ。その底意。さ。さ。志成。さ。小。本。曾。氏元。信時
 勢。ふ。渠。ち。平。館。を。城。を。援。成。唱。し。軍。を。起。地。を。争。ひ

使者小對面せん等雨るるに歎けさせと町噂小傳も不負の孝吉の
 君が賢死にこそこのと。たのしく彼老狸は欺とめひめる景連案小
 與。徳系幕のめりふに當國ゆへる死鯉を求めと殺さんとい計る
 へ。今さう小虎の死壽を述べ死通に些の物死贈りてその方死
 するのめりふその好針あるべくと使者を歎待めんとし御對面ハ物
 体あると竊に練やうせしふ義実堂公とうち笑と景連実情にて
 あまの死通せむとも今世とてさうとさうハ憎む死めのみあふと
 あうふ小こきさう移くも。その舊惡死外つ。文死結がむとこしハ彼
 背くあり。あめかくゆと争ふ入るふ口直死不義とせん不義めて
 提とあふとも義実ハ死にうらむ死に疑へるふとどとくも死に輪と
 みづう使者小對面。納平が還ふ不及び。共小金碗八郎死安房郡遣

主壁の礼小答へ服の如く贈りて。いふも死く文を破るると世言
 めハ景連大に死びと孝吉をわく歎けし。いづう世言書をふめく
 義実ふありけり。是よりと安西ハ安房朝夷の二郡死領。義実ハ
 神餘の舊領長挾平郡の二郡死領。犯ととと争ふとと世
 のど長閑やふあり。核倉木曾め氏元ハ東條より召久さきててふめ
 安堵のふひける。君臣上下笑とて向と樂うととといふのはあま
 行ふ七月の星ある夜ふかたふ小けき。その夕日と義実ハ端ちう
 知す。核倉氏元堀内貞利。金碗孝吉ハ功臣の死召聚く。占茶の
 礼辯をうと。いふ里見の家例ゆへ茶の礼と。来と死彈ひん。あふせと世言ひ
 は。この功早ふ不官ふ。予が幸ふ二郡死獲とより波風たぎたる
 のう。とふふ小事歎く。祈りて神小賽さ。又功臣を不賞と

わづ。あつめ山を造る。小松。さても氏元負ひ。先考の遺命。受て
こが。艱難。小松。後。ひる。その。忠信。今。さ。ふ。い。ふ。べ。う。も。あ。う。ざ。め。且。白。筆。の
上。ふ。金。碗。考。士。小。遭。さ。り。せ。た。い。ふ。く。功。業。と。の。地。小。建。る。う。あ。ん
又。總。が。書。を。使。さ。む。八。定。色。い。う。さ。首。を。か。う。ん。彼。と。こ。こ。と。こ。こ。か。る。こ
第一の。勲。績。へ。さ。う。さ。う。さ。う。さ。う。安。西。ホ。が。奸。計。小。あ。て。れ。く。軍。法。の。て
斬。れ。ん。欽。兵。糧。竭。く。餓。つ。う。と。敵。の。為。小。擒。と。あ。う。ん。この。二。小。遇。べ。う。さ。ぞ
時。か。う。や。く。清。涼。あ。く。根。る。一。言。の。事。あ。む。さ。ふ。待。を。賊。一。歟。孫。孫。ん。為。は
今。宵。ハ。二。星。の。あ。ふ。と。う。い。り。星。小。君。臣。上。下。の。差。あり。人。の。吉。凶。二。星。小。係。る
こ。こ。既。又。天。小。推。言。了。當。城。の。八。隅。ハ。八。幡。宮。を。建。立。し。秋。毎。又。祀。り
又。領。内。小。徇。を。け。し。く。孫。孫。殺。と。て。孫。禁。め。ん。又。金。碗。八。郎。考。士。長。松
半。郡。孫。孫。與。く。東。條。の。城。主。と。せん。氏。元。負。ひ。ハ。所。領。あ。く。五。千。貫。を

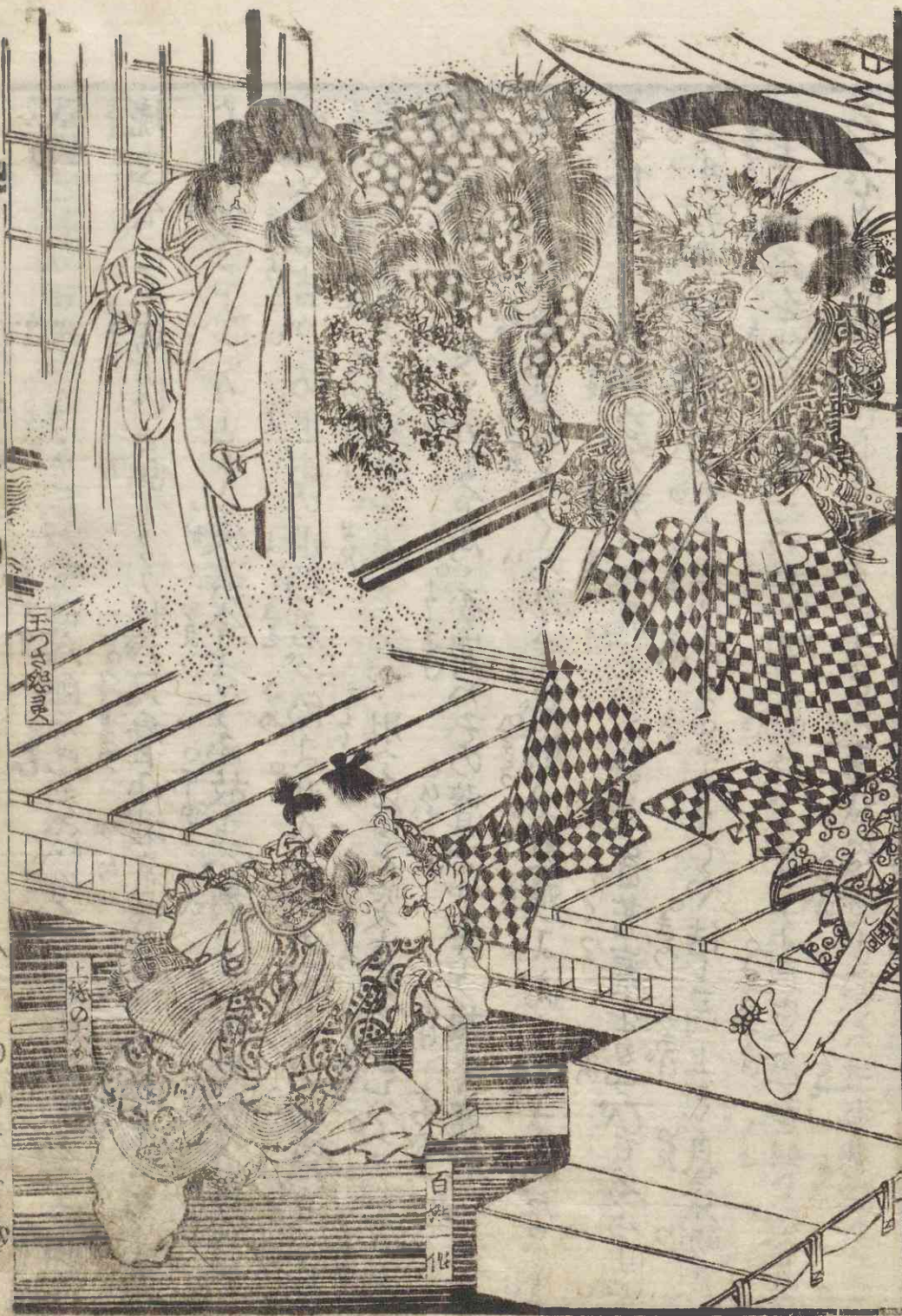
究。行。ん。の。旨。あ。う。い。へ。と。正。首。小。視。示。し。く。い。う。う。字。か。う。せ。め。ひ。
一通の。感。状。を。よ。ぶ。考。吉。小。賜。さ。る。考。吉。三。さ。び。載。た。く。その。後。返。し。せ。り
席。を。避。く。さ。う。い。や。相。傳。補。佐。の。老。臣。小。先。づ。い。め。り。恩。賞。再。度。及
ば。せ。り。孫。推。辭。を。け。う。い。ひ。び。某。初。り。名。利。の。め。る。小。あ。う。さ。り
故。主。の。為。は。逆。臣。と。誅。せ。ん。と。さ。る。の。と。實。小。君。が。威。福。さ。う。さ。宿。志。我
果。し。い。り。こ。う。の。恩。惠。さ。う。と。う。さ。實。さ。う。さ。夫。名。聞。榮。利。小。か。ん
ら。う。さ。功。成。く。身。退。く。現。義。士。の。志。如。此。あ。う。さ。る。う。な。う。唐。山。の。張。良。ハ
故。主。の。為。小。秦。楚。を。滅。し。後。竟。又。封。爵。を。漢。さ。う。さ。受。く。田。侯。小。封。せ。れ
こ。例。あり。こ。う。高。祖。の。德。さ。う。さ。と。和。融。ハ。さ。う。張。良。が。孤。忠。小。あ。う
さ。又。功。ある。人。我。賞。せ。び。誰。う。その。志。我。忠。孝。節。義。小。激。さ。る。死。狂。く
予。か。意。は。後。ひ。く。と。と。諭。し。さ。う。氏。元。負。ひ。亦。こ。う。孫。孫。め。く。彼

孝子を遠く
孝吉大義小死す

松倉氏元

金丸八郎

里見千鶴



威状さうちも措け處とせバ金碗八郎へ已玉成ぬむとふ受てうち因死
 続ふち。こゝ賜じと辞しうせバ只管小我意成らうと思ふとあふる
 の小似てことさうとく受て今さう小故主へ對しと不思なり。受て
 受る者吉か。の世あの世乃君がぬ。せんさるあま。このひあへど刀を
 見つと引拔く。彼威状を卷そえん。吐へざと突立まば是かとむり主
 後二人ほより迎く居よう。義実へその臂をさる揚く瘡口とさる
 かうさあうち熟視尖刀あう入り。さう助るべ死痰あふさうさうたうら
 この終ゆく緋絶る。誰う狂死といひさるべき。苦痛を忍びてあふはし
 かくさうたういひ送りてよと宣ふ声をせとりてや。詰と向上く息成吻さ
 故主の枉死をせり。とたの吐ハをや切ゆへうさう小只定包を替へんと
 ろふさう小存命ても有むらあふ事成る遂まかふ時あり。縁ありて

田小仙遇。なす大馬の旁を竭せしより。切し過る恩賞成今又小受ゆと
 後ろなり。故主の枉死とさ幸とさあふ。存命かた死とさなり。
 加以落羽岡あふ。定包たふんと思ひさや。國主を傷ひさる。杉木
 朴平を垢三才の原某が家僕へ彼ホが義執云某が劍法を傳じさる。あふ
 りとあひひるさう。下司の兵法大痴の基成用たり。孝吉が恨小他く愉
 かへ存命とた二見彼漢朝の張良さうさる。さうさる。さうさる。さうさる。
 田横が死して後も潔死したるを慕ふ。君臣さふく。松其の席成。さう
 非礼の罪ハゆさせさふと小膝成突刀をさる。右のうへ。小焼さん
 とさ。小親小彼禁めよと義実へ焦燥さふ。負の氏不美。小携て御定へ
 とさ。もかても冥土の旅宿今さういさる。さうと。小焼成。さうさる。
 数回嘆息し。さう。孝吉。表成。さうさる。さうさる。さうさる。さうさる。

然るに熱い恩賞の淋淋とくその死を促せし。こゝ生涯の恨えを八郎。
 黄泉へ之を汝の首途と。其実饒別せん木曾公彼公ををしく。己と
 仰せし氏元ハ阿と。縁敷ふ立歩く。上総の一能をやあおと。と
 ちやふ心ちふ義り。声も鼻も。目ハ涙六十あちりの
 莊客が前より其処より。拷の脚半甲掛裾を。折る右ふ菅笠
 危ふぬ五才なる。男児の。被覆を屈め。樹立間多死後園の
 折戸の産成立歩く。と氏元が招く。縁敷ふをわけと
 伸あがりや。八郎との。孝吉ぬ。上総より。一能ふひを女児
 濃敷ふ。その子ハこれ。さうやく。来つる日ハ肚切
 ちやハ行つる。と恨も。園を。女児
 美人の席と。孝吉ハ一能と。名告る。縁敷ふ。目成る。死す。ち

するの。おの。當下秋倉氏元ハ孝吉ふち。對ハ八郎。彼。多りや
 某館へ。折件ハ老人。路次ハ在立金碗氏の。何処と。後者ハ同
 一ハ有繫小。これを。その。東。様と。稚
 児の。さ。生。出。ち。措。と。孝吉ハ。宿所ハ。あ。んと
 る。ハ。後。又。と。と。修。君所へ。且。乃
 縁を。人。小。告。と。せ。殿。も。上。了。ふ。そ。ハ。奥。ある。上。ふ。なん。ハ。郎。
 か。子。る。ハ。末。憑。た。の。と。と。と。引。あ。んと。その。種
 ち。ハ。金碗。と。と。と。一。能。ハ。推。児。の。と。と。
 後園。なる。猪。折戸。の。落。下。潜。せ。殿。の。仰。成。結。り。は。豈。あ。の。ん。や。と。の。我。
 ち。の。い。ろ。く。ハ。和。殿。ハ。自。殺。外。る。が。と。と。老人。の。ひ。の。う。ち。ハ。い。ろ。あ。ん。
 せ。め。今。般。親。と。子。の。名。告。成。と。と。と。と。お。殿。の。賜。ハ。八。郎。と

心活まば孝吉ハ中致致松との期ふ及びて。親子の名告それゆへに
 るみかん某主君を練うひく瀬田を立去り折上総四天羽郡岡村の
 莊客小一他といふの。則件の老人へ父が時分使れり私率ていへば某
 目く彼公羽が宿所不足致駐めり。旅宿の中は渠が女兒濃菰が許すけ
 濡き。結ぶ夢。露の間に千とせの杖と契りて。枕乃菰をかき
 ると。平ちうぬろとありけり。と婦が告るふさう。驚死現を惜ハ
 意外の悪事と世務ふもの。さう人なり。往方定めぬ旅の空。さう
 恋の家やう。松平綿と果ぬ妹と伏の浮名致立く。誠ある人の女兒は
 瑕疵て。今さう親が許さうと。絶く合さる面ハる。浅き。死に
 けり。百遍悔千遍悔と。後悔其れ。立さる。老のびく。濃菰が
 墮胎せよと。勸る。別は思ふ。なす。よ。その甲斐。なす。急状一通。

一他は迷ふ。さう岡村を去り去り。彼此は漏浪て五年といふ。この夏この日
 故主の枉死を憶ひ。定包を解んと。竊小還る舊里の途の傍。見
 あち。ど。一他。許音つ。濃菰が。ひ。いう。ふ。と。臺。も。回。る。て
 たり。あ。さ。その子。の。産。せ。く。年。来。養。育。の。誠。を。い。れ。い。と
 る。は。面。目。な。く。て。い。つ。と。い。声。も。い。や。片。息。た。る。現。理。り。と。一。他。の。慰。み。と
 鼻。う。ち。か。右。繫。小。得。に。武。夫。も。亦。い。脆。き。人。情。況。て。あ。ん。ろ。の。妻。も。あ。る。
 子。も。た。た。旅。宿。の。後。然。を。慰。や。う。せ。女。兒。濃。菰。の。淫。奔。小。似。く。淫。奔
 る。べ。い。つ。ば。さ。う。氏。素。姓。の。故。主。の。胤。を。宿。せ。彼。奴。ハ。天。暗。果。報。め。
 佳。壻。と。い。ふ。ろ。で。ハ。婆。と。い。ふ。共。又。飲。ひ。ん。あ。ま。も。あ。る。ぬ。わ。り。な。行
 とう。猪。の。ひ。け。ん。和。君。ハ。出。て。か。り。あ。つ。て。往。方。を。索。り。ひ。く。と。女。兒。ハ。絶
 なく。臨。月。小。産。と。い。ふ。男。兒。見。え。あ。る。愛。と。祝。ぐ。同。方。く。濃。菰。を。積。り。

あつひふ肥立く竟ふ十萬億土逝くかゝる人となる。その初七日と二七夜
寔は日向を照し米の内の乳を貰ひて生死あつたふ三思流思苦へ
結る言の事小演喝さるゝとわづらひさるゝ赤子八健へ主と女兒が形目ぞ
とんまふ可愛くいと惜く昏へ終日懐は夜ハ通雷又耶婆女が送代は流
す。かうや立改よといふに笑ふおれやといふとさうさうさう引伸は綿
繰馬小索の綱は牽きく二番草とるゝ後とるゝ瘦田の案山子おれ
ととく日を送る。年が過ぎゆく四といふ去歳乃秋より安を病著片
ひ呼吸なる者病八屈ぬ棚の某獨唳兒小絆つゝ熱著すゝ小煎下結
ゝるその年の大晦日ハ波てゝ往生は脱りかゝる木偶と稚兒とこと只
三人棺を守りあつ玉の年終は門松ハ冥土の旅の一里塚禪僧良小語て
えても曉かゝるハ八丈心六十八の今茲こそ二生涯の憂苦患難をとおふ

取てもよく足るぬ再三この大厄難孫小愧と泣老が力ハ春の外山小
笑れも涙の氷凍解て佛へ折る背門の梅苔も恰好五ツ子。五分で
ゆる念仏は欠伸の難る宵迷ひ短夜るゝ春過て卯月の下流上上縁の
うらまゝ。都國の。和君。合戦の中隠るゝ。下。ひ。撃た
。見より。勇あり。い。わ。ん。と。歩。行。不。便。の。老。人。推
見員。戦場小ゆんハいと危。時を俟んと。ひ。以。て。対。お。こ。る。ゝ。死
ゆ。い。定。く。け。い。く。来。甲。斐。る。多。今。投。の。對。面。過。世。の。業。報。想。像。は
。悲。多。ハ。物。の。屑。あ。ひ。り。を。こ。の。子。人。と。成。る。後。は。二。親。る。り。白。老。を
送。憾。ハ。い。つ。た。ん。喃。加。多。三。あ。き。て。を。お。ん。が。ま。こ。る。れ。顔。え。お。え。こ
指。せ。稚。兒。ハ。伸。あ。り。を。ま。る。喃。と。声。立。く。心。を。親。ハ。え。る。を。り。物。の
た。け。小。動。せ。唇。の。色。変。り。つ。や。臨。終。と。え。え。ハ。長。安。ハ。稚。兒。と。ほ。こ

ちく百よりと。さんかうんち。面影の父八郎よりく背より。その名ハ竹上と。と
 と同せふ。一休も膝推屈より。向上楚と定。名ハひのきと。故土と女兒の
 形見を。加多三と。と喚做せり。と。上ま。さ。そ。あ。ん。この子と我。
 金碗大輔孝徳と名告。又が忠義を。美嗣け。人。と成る。敗。のと。長。被。
 半郡を。衣。與。東條の城主とせん。一休の外戚。ゆ。な。な。通。り。て。大。輔。後。
 足。せ。下。當。坐。の。勸。賞。五。百。貫。主。の。推。見。は。取。さ。る。し。こ。色。其。土。の。芭。芭。丁。
 老。く。佛。果。と。ゆ。と。や。八。郎。と。ゆ。び。激。さ。る。と。考。吉。ハ。鮮。血。小。塗。る。左。の。び。
 抗。主。君。と。拜。を。な。り。き。や。も。と。引。連。は。刃。の。蹟。小。大。腸。の。少。成。大。と。相。そ。え。
 人。々。み。惜。さ。の。む。そ。と。い。の。其。末。期。の。一。句。少。く。項。羽。伸。は。と。勝。つ。ぬ。苦。痛。さ。せ。
 一。と。義。実。ハ。ち。佩。刀。を。引。抜。と。み。や。多。背。小。立。多。く。不。良。果。敢。は。八。郎。と。

首の前小ちとけ。星。期。ハ。あ。る。も。堪。ふ。一。休。ハ。声。を。惜。む。泣。く。老。乃。
 淳。言。を。う。け。り。答。つ。氏。元。貞。好。い。と。王。首。ハ。慰。ま。る。辨。見。ハ。只。あ。る。と。酸。鼻。の。と。
 情。由。あ。る。と。緯。あ。る。親。の。顔。残。さ。り。醒。も。亦。良。れ。さ。る。金。碗。八。郎。が。死。
 果。と。た。星。墜。と。七。日。の。月。ハ。西。よ。入。り。陰。と。と。心。火。閃。光。女。子。の。像。教。の。
 一。と。大。輔。が。方。小。ち。あ。る。と。死。消。を。如。く。あ。り。け。り。と。と。残。る。の。義。実。の。と。
 その。餘。ハ。さ。る。と。あ。る。と。死。か。く。と。義。実。ハ。氏。元。貞。好。を。近。く。百。と。せ。さ。
 吉。と。送。葬。大。輔。を。養。育。の。事。叮。嚀。小。命。ハ。ゆ。ひ。ら。軀。と。後。堂。と。入。り。
 多。ひ。ぬ。時。ハ。漏。刻。高。く。音。と。夜。ハ。と。や。亥。中。小。ち。あ。り。と。け。り。
 他。者。云。こ。の。辰。七。月。の。初。旬。も。と。も。出。像。ハ。冬。の。夜。裳。小。似。と。現。羅。
 夜。ハ。画。と。も。移。る。と。ハ。定。り。な。る。ゆ。め。の。え。こ。ま。と。ハ。画。者。の。好。小。ま。る。
 一。と。敢。時。希。小。拘。と。か。る。と。同。多。く。王。臣。者。あ。る。と。咎。あ。る。

又いふ。あの出像より氏元をのこして負れぬ首をたぐさなぬめりのも
なまじい。いふあへさせしむりなめれ。刑罰氏を助けし。

又いふ。巻端第一面結城合戦の條より。あふ至く僅小四ヶ月嘉吉
元年四月小起す。ある年の七月小終る。僅れその間八十餘日とふ

ちん第八回小至て八年月遠小程経る。十六七年のゆふ及べり。
その間より伏姫の成長をさく。いふ。さへも相持たれぬ。皆

者略く。くくく。いふ。こま。いふ。創め。す。精鹿互ふ。越を異ぬる
あふ。柱小膠まふ。似れ。と。次序。残。恨。と。の。や。と。く。も。う。さ。ん

人のぬふ。か。る。より。さ。み。み。づ。う。注。し。

第八回 行者の岩窟小公羽伏姫を相を
瀬田乃近郊に狸難拘を養ふ

金瓶八郎孝吉が猛小自殺をりける。志成あふ。さ。り。の。ハ。渠。死。る。で。も。の。り

る。小。功。あり。賞。を。辞。し。可。惜。命。を。亡。ひ。し。あ。る。金。王。梓。小。罵。ら。る。と。成
愧。る。と。ん。と。難。む。の。り。も。あ。る。と。か。ん。と。さ。い。ふ。人。の。賢。は

人の言のそふ。男子。寡。欲。な。ま。ふ。百。害。を。退。け。婦。人。は。妬。る。と。ふ。百。拙。を
掩。ふ。とい。ふ。況。う。道。徳。仁。義。を。や。さ。ま。ば。義。実。の。徳。孤。る。と。む。と。鄰。國。の

武士。景。慕。し。ぬ。成。通。婚。縁。を。慕。ふ。と。又。さ。う。す。け。る。そ。の。中。小。上。総。國
推。津。の。城主。萬。里。谷。入。道。靜。蓮。が。息。女。五。十。子。と。心。做。ける。ハ。賢。み。と。妬。は

義。実。氏。又。は。人。を。さ。さ。る。の。ハ。こ。ま。成。娶。る。一。女。一。男。を。産。み。あ。の。そ。の
第一。女。ハ。嘉。吉。二。年。夏。の。季。小。生。れ。る。時。三。伏。の。時。節。成。表。し。伏。姫。と。云

名。け。し。三。郎。ハ。その。次。の。年。の。と。り。又。奉。り。し。二。郎。太。郎。と。を。稱。せ。し。後。小。次。の
箕。求。成。嗣。と。安。房。守。成。と。い。ふ。相。村。又。在。城。し。武。威。を。と。く。隆。る。り。た



玉つゝ怨み

伏姫と相く
異人後難を
知る

伏姫

堀内貞彰

瀬田の
近村に
狗児を
守む

うち乗つて妹母が膝より抱きしめて外がけく左右よりうち囀されぬ
 とも樂いげたるをさきさきと途をさきと啼きぬ後者も傷痛く殊
 更ふ途狭いそびとさうさうと綱崎小敷に明神の別當なる養老
 寺に旅宿して彼行者の石堂へ七日来るまで待つて結願の日も果し
 後者もハ帰館を促し旅宿を出る轎子ハ平郡のさう一里むうり
 来つてんとつ折曲るへいさむつうさ女房乳母も氣をひて轎子より
 出さぬさ世襲は目録さうさうとかれ抱せぬさ途狭いそびと
 果敢しとぞ。浩然と年の齡八十ありの翁一人冒雪八字に霜をぬれ
 り腰の杖のうと張り。鳩乃杖は推しあつて途の真中へ憩ふなり。故に王
 行るは後者もハ先を急追むそのとれ翁ハ目をさしたるさ。伏姫を
 熟視くとさハ里見の姫君さうさや石堂のさささうハさか加持して進

せんといひひききと後者もハ驚愕し劇さうさ現彼翁が為件凡人
 ああさうさうけり。惣は実談告む。あかりとさひさうハ老當老女ハ
 翁小對ひと。緯の類此も隠さうと云々と告むけさ翁さうさうさ
 寔は靈の祟あり。さうこの子の不幸なり。襖よかたさハあう終と
 禍福ハ糾る纏の如し。譬へ一個の子を失ふ。後小縣の翼を得る。禍を
 禍なうと損益の方みさうさうさ。終るさうさうさうさうさうさ
 二よりさ実夫婦と告う。さうさうさうせん獲身ゆさうさ。さハあさ
 ともさ。と緯負小説示し。仁義礼智忠信孝悌の八字を彫る。さ水晶の
 珠数二連成懷よりさうさう。閃りと娘の衣領さうさうさ。老當老女
 劇悉ひさうさ。さ翁さうさうさ。翁の祟さうさ。委細小説さうさ。後さうさ
 襖鎮さうさ。さうさ。翁さうさ。微笑妖ハ徳小勝さうさ。さうさ。悪霊のさうさ

いふとも里見の家へまゐり栄ん盛座とたへかちあつても、
 べん。おはれ哉委細ふ示候とたへ天機を漏さぬおそきあり伏姫といふ名よ
 ようやく。みづろく曉ふ曉得なんさのきけりやこの女の子が、
 べん。どくとけね後日直にイヤ罷るえといひつけ、例崎のかへ還るとぞ。
 まゝとておふぐ如く開けしええまぢやとわけり。後者亦忙然と要時其方を
 目送りつこと入主役行者の示現より。と云ひしこそ食ひたるふり
 拜々。鹿田を投てかりける様は姫へのむろりるるを快愉な遊戯も殊よ
 この日をめぐりあとして抱のつひさなる尋常なる三歳児ふすゝと見えさせ
 るべ或ハ愁び或ハあやと鹿田へかへ入るやわらせとて件の特異哉
 冥五十子ふせえあけり。件の殊致あるを大々こめぬ冥助なれば
 義実へうちもちるごとく更ふ差入負羽を洲崎の神社と行者の石窟へ遣して

幣帛と獻^{たまは}し姫^{ひめ}うの^のの^の後^{のち}に^に災^{わざ}害^が消^き除^ぞと祈^{いの}しつ珠^{たま}数^{かず}を^を常^{つね}小^こ伏^ふ姫^{ひめ}の
 衣^え領^{りやう}小^こ被^ひさせ^をひ^ひけ^けて^をか^かく^く又^{また}四^よ年^{ねん}あ^あま^まりの^の春^{はる}立^たち^ちる^るに^に姫^{ひめ}君^{きみ}七^{しち}才^{さい}と
 ち^ちの^のま^まの^のま^まに^に金^{きん}幣^{へい}を^を下^{した}ち^ちて^を印^{いん}を^を土^ど王^{わう}樹^{じゅ}と^と名^なく^く花^{はな}を^を締^ひふ^ふ天^{てん}乃^の作^さる^る大
 顔^{おほ}と^と貌^も世^よに^に傳^{でん}る^るた^たの^のま^まに^にび^ひむ^むさ^さめ^めいと^と怜^{れん}悌^{てい}に^に眉^{まゆ}を^をひ^ひる^る草^{くさ}紙^しの
 ひ^ひく^くひ^ひく^く終^{しゆう}日^{にち}倦^{けん}た^たも^もき^きる^る夜^よに^に絃^{げん}管^{くわん}の^のあ^あく^く小^{せう}耽^{たん}く^く更^{さら}闌^{らん}る^る式^{しき}を^を
 め^めの^のま^まに^に年^{ねん}十^{じゅう}二^にと^と及^{およ}び^びし^しる^る和^わ漢^{くわん}の^の書^{しよ}籍^{せき}を^をし^しく^く読^よみ^みて^をさ^さく^く事^{こと}の^の道^{どう}理^りと
 知^ち覺^{けつ}し^し仇^{あひ}を^をく^くる^るに^にあ^ある^る或^{ある}釋^{しやく}を^を親^{おや}を^を教^{おし}ひ^ひ下^{した}と^と憐^{れん}み^み孝^{かう}貞^{てい}忠^{ちゆう}忍^{にん}の^のつ^つら
 常^{じやう}住^{ぢゆう}坐^ざ臥^ふし^し又^{また}え^えさせ^をめ^める^る母^{はは}の^の鍾^{しゆう}愛^{あい}の^のつ^つが^がさ^さく^く入^い美^み笑^{せう}の^のあ^あら^らと^と人^{ひと}
 小^{せう}も^も誘^{よう}し^しる^るひ^ひけ^けて^をか^かく^くこ^この^の比^ひ長^{ぢやう}挾^{けつ}郡^{ぐん}富^ふ山^{さん}と^とう^うあ^あら^らと^とう^うの^の村^{むら}落^{らく}と^と奇^き
 譚^{たん}あり^りけ^ける^る字^{あざな}技^ぎ平^{へい}と^とい^いは^はる^る莊^{しやう}客^{かく}の^のい^いる^る犬^{いぬ}子^こを^を只^{ただ}と^とつ^つ産^うめ^めけ^ける^る
 ち^ちの^のも^も牡^と狗^くと^とあ^ある^ると^とい^いは^はる^るよ^よふ^ふ知^ちつ^つ子^この^の逸^{いつ}物^{ぶつ}と^とく^く骨^{こつ}逞^{てい}し^しく^く力^{ちから}を^をと^とく^く

融るゑめとのふちのまぶ枝平のいと惜まき背門小藁蓋背かけて彼が
産室と定めて朝夕糧のあまれぬと願ひての事をなうかくてまや七日
むく経たぬふその夜背門なる色と毀く狼入る彼母犬を咬付く
銜去ぬ枝平の天明し後血をえりてとて死なむとてけしき打腹いのそ
秘をる。さらし雛狗ハ食送されて不思議は羨なりけり。せめてめ
るふちをえりていつの不役の物とまじりてと彼ハいふ目ふる用む
乳けり。びと又別とてと養ふ。やうなるれバ損糊る。いつの代まで
いそぐ。まのふちめととと枝平の妻子る。元来單身なりけり。又
田畑の稼り宿所はあると稀なる。そのるも遠ざかりかく。只
ふ城東後つ。彼ハ死す。侯のそとあひ捨く草野へ。一日二日と経たぬ。
る月怪しむ。彼雛狗餓る。むきへええむ。十日といふ目。死す。

肥るといふ。小ま。たま。その平のふあ。びと。人。中。告。早。暮。ふ。と。成
附く。種。ひ。ある。お。ま。ふ。起。ふ。と。老。ふ。一。隻。の。狸。狗。菰。屋。の
ま。り。と。富。山。の。う。さ。む。け。る。原。来。雛。狗。ハ。彼。狸。ハ。多。く。あ。え
む。と。世。も。又。あ。る。づ。れ。り。と。い。ふ。ま。む。と。い。ふ。と。な。り。ふ。只。顧。驚。嘆
す。め。の。う。さ。む。け。ふ。は。楚。と。定。ん。と。ま。む。さ。う。な。く。人。小。結。む。と。其。黄。倉
背。門。は。縣。と。う。狸。の。も。る。成。や。り。は。雛。狗。ハ。田。を。其。ひ。つ。と。と。啼。く
時。小。燐。火。う。人。魄。の。離。田。の。う。さ。り。内。死。す。と。中。天。より。樓。地。と。な。彼。狗。菰
屋。の。ほ。と。う。ゆ。と。忽。然。と。滅。る。と。そ。な。う。今。朝。死。し。狸。の。そ。か。け。け。ふ。富。山
う。さ。り。ま。む。と。ま。て。菰。屋。の。内。へ。入。り。し。雛。狗。ハ。頃。は。啼。止。て。乳。を。吸。ふ。音。の
や。め。え。と。ま。か。く。と。四。五。十。日。を。歴。る。隨。大。ハ。も。大。き。う。な。り。て。よ。く。あ。ん。死
ゆ。と。り。食。へ。狸。ハ。遂。に。死。な。り。や。う。と。今。も。の。雛。狗。大。懸。と。魚。做。せ。と。

たり。如く生計す。小く其志を。忠義受嗣。忠義援郡の仕役なり。一
 君を練。其後。景連生。平少。疎遠。して。事の難。義。小。なる。と。養。女。
 求。め。穀。を。借。る。渠。之。恩。義。を。め。た。ん。や。この時。を。り。て。討。め。へ。ん。
 峯。一。と。安。居。一。回。を。平。均。を。多。う。ん。と。疑。ひ。は。り。その。乞。め。仕。へ。る。賊。小。
 糧。を。賣。し。無。言。ふ。を。藉。と。し。只。出。陣。の。確。信。し。て。あ。た。り。お。ほ。し。く。い。ふ。
 憚。る。も。た。く。や。う。に。め。で。義。実。と。互。に。攻。め。あ。は。れ。汝。弱。華。の。分。際。を。
 行。ふ。我。う。と。も。多。う。死。讐。敵。う。と。い。ふ。と。も。山。は。東。に。く。攻。め。る。良。將。勇。
 士。に。せ。ざ。ん。ん。況。や。安。西。景。連。ハ。今。こ。ろ。は。仇。を。ぬ。お。故。る。う。と。千。戈。を。
 動。け。て。互。に。多。名。の。軍。と。い。ふ。多。名。の。軍。ハ。後。の。事。に。う。ち。あ。る。の。故。に。奴。ら。を。
 と。數。回。と。り。く。叱。と。懲。ら。し。め。則。米。穀。五。千。俵。安。西。に。を。贈。る。ふ。か。く。と。
 又。その。明。の。年。義。実。の。采。地。なる。平。郡。長。坂。ハ。荒。作。し。く。景。連。が。采。地。の。と。ハ。

尺。穂。う。く。登。り。ふ。け。と。異。小。借。と。米。を。返。さ。び。瀧。田。ハ。上。下。困。乏。く。と。辨。
 ち。や。難。儀。小。及。ひ。たり。當。下。金。碗。大。捕。ハ。竊。は。主。君。小。う。い。や。う。鄰。國。鄰。郡。急。を。
 救。ふ。と。相。與。は。扶。助。け。その。足。さ。る。兵。補。と。は。好。結。め。も。その。益。わ。り。安。
 西。に。去。年。の。秋。野。の。穀。借。ひ。が。あ。つ。た。の。危。急。我。知。な。か。り。今。丁。は。
 こ。し。我。返。は。と。る。彼。人。は。こ。の。ゆ。め。あ。る。な。い。な。い。と。や。債。り。あ。る。と。
 と。う。い。ふ。と。あ。る。と。義。実。ハ。大。捕。を。こ。の。子。の。と。く。愛。し。め。と。他。乃。娼。と。
 あ。つ。た。ん。と。と。陽。め。い。と。叱。り。あ。る。と。志。我。激。し。め。渠。ハ。年。々。北。を。
 起。る。器。量。骨。相。親。は。あ。ら。む。と。今。茲。ハ。東。條。の。城。主。小。せ。と。と。豫。り。
 用意。我。者。め。と。も。る。ゆ。その。年。の。こ。う。た。我。め。と。老。う。く。ふ。ハ。好。と。あ。ん。
 一。の。功。を。立。せ。せ。と。その。勸。賞。ハ。奉。用。ひ。ん。と。い。ひ。め。最。中。な。い。と。と。あ。く。
 の。せ。と。う。ち。点。に。は。が。孫。輪。子。が。意。は。稱。へ。り。使。者。ハ。汝。を。遣。さ。ん。と。あ。る。



良野の
松原
初平
大痛と
承

金碗大捕主後僅小七八人必死と必ひ決りつけしに射れども破とも物とも
廿日誓へつ誓れつ追ひつゝ人。半時あまりの血戦は敵ハ三十餘騎殺れど。
死骸ハ路上小横り。躬方ハ七人命を預くと。大捕むとありふありしと。なる所
一歩も退くを誂平小組んと。出沒不測は走と速とと敵ハ目小あまる
大勢は遂は人馬小隔らして。その遂へるやあきなりけり。夫君子は欺く
べ。陷るべくしと賢者のいひえ定ふ志あり。義実ハ蓋世の良將に心ひて
民を掩ひ義信のつと鄰郡は交る。景連奸詐彊る。これを欺くは
その方とありては。且て疑ひ。君子の人と稱さるふ足と。義実
子産が才ありとも。その欺詐はもとより。抑亦定まるるべし。

南總里見八犬傳卷之四

終

